

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	1	0.2
80～89	40	6.2
70～79	113	17.4
60～69	153	23.5
50～59	159	24.5
40～49	92	14.2
30～39	61	9.4
20～29	25	3.8
10～19	6	0.9
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した650人(12.5%)の結果である。

*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率
一	問一	㉠ 79.7
		㉡ 35.8
		㉢ 84.5
	問二	A 31.5
		B 82.2
	問三	44.6
	問四	68.7
問五	89.2	
問六	41.8	
問七	89.7	
二	問一	㉠ 91.1
		㉡ 96.9
		㉢ 68.6
	問二	65.1
	問三	87.2
	問四	72.6
	問五	31.9
問六	63.1	
問七	66.9	
三	問一	67.7
	問二	24.0
	問三	34.0
	問四	53.6
四	問一	16.5
	問二	58.1
	問三	59.8
	問四	35.8
	問五	64.5
	問六	68.6

〈表3〉

大問	平成20年度	平成21年度	平成22年度
一 文学的文章	66.5	70.2	54.6
二 説明的文章	54.2	56.8	57.0
三 融合(古典・表現)	46.9	52.0	52.2
四 言語事項	67.2	58.0	71.7

大問	平成23年度	平成24年度
一 文学的文章	61.1	64.3
二 説明的文章	59.6	64.4
三 活用	59.8	44.5
四 古典・韻文	60.8	51.5

2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の人数は全体の23.7%で、昨年度に比べ減少した(昨年度30.0%)。40点未満の人数は全体の14.2%で、昨年度に比べ増加した(昨年度10.2%)。平均点を中心として、ほぼ正規分布となっている。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は7問で、言語事項に関する知識・理解を問う問題について、概ね正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は7問で、思考力、判断力、表現力等を必要とする問題の正答率が低かった。

漢字の読みの正答率は高かった(一の問一の㉢、二の問一㉠・㉡)。また、読むことの基礎的な力を問う記号選択の問題も正答率が高かった(一の問五、問七、二の問三)。

一方、漢字の書き取りや慣用的表現を問う問題の一部、古典の基礎的な知識・理解を問う問題で、正答率が低かった(一の問一の㉡、問二のA、四の問一)。また、文章等の内容を読み取り、記述する問題の正答率が低かった(一の問六、二の問五、三の問二、問三、四の問四)。

〈表3〉について、一の文学的文章、二の説明的文章の内容や表現を理解する力等をみる問題の正答率は、昨年度より高かった。一方、三の情報を活用する力等をみる問題、四の古典を含む韻文の内容や表現を理解する力等をみる問題の正答率は、昨年度より低かった。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点			
				記号選択	抜出	記述	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識 理解
二	一	文学的文章	漢字を正しく読み、書くことができる。			○				●
	二		文脈に合う慣用的表現を指摘し、文がつながるように書き直すことができる。	○		○			●	●
	三		文章の展開に即して登場人物の心情をとらえることができる。	○					●	
	四		文章の展開に即して登場人物の言動の意図をとらえることができる。		○				●	
	五		文章の展開に即して登場人物の心情をとらえることができる。	○					●	
	六		文章の展開に即して登場人物の心情をとらえ、書いてまとめることができる。			○		●	●	
	七		文章表現の特徴やその効果をとらえることができる。	○					●	
三	一	説明的文章	漢字を正しく読み、書くことができる。			○				●
	二		副詞の呼応の関係を指摘することができる。	○						●
	三		文章の展開に即して内容を的確にとらえることができる。	○					●	
	四		文章の展開に即して主張と具体例の関係をとりとえることができる。	○					●	
	五		文章の展開に即して要旨をとらえ、書いてまとめることができる。			○		●	●	
	六		文章の展開に即して内容を的確にとらえることができる。	○					●	
	七		文章全体の内容を的確にとらえることができる。	○					●	
四	一	活用	文章の展開に即して資料が果たす役割をとらえることができる。	○					●	
	二		資料の情報を活用し、文章の展開に合うように内容を書いてまとめることができる。			○		●	●	
	三		意見文の構成や論理の展開を的確にとらえることができる。	○					●	
	四		資料の情報を活用し、条件を踏まえて自分の意見を書くことができる。			○		●	●	
四	一	古典	古文の歴史的仮名遣いを正しく読み、現代語訳することができる。			○			●	●
	二		書き下し文に従い、漢文に返り点を正しく施すことができる。			○				●
	三		複数の文章を読み比べ、共通する表現上の特徴をとらえ、説明することができる。			○			●	
	四		文章の展開に即して内容を的確にとらえ、説明することができる。			○			●	
	五		複数の文章を読み比べ、共通する内容をとらえることができる。	○					●	
	六		楷書と比較して行書の特徴をとらえることができる。	○						●

4 標準解答及び考察



〈標準解答〉

問一	① 貴重 ② 過大 ③ からまわ
問二	A 合わせた B 持て余し
問三	I エ II イ III ウ IV ア
問四	カズユキが出かけ
問五	ウ
問六	(例) 少し照れくさいが、両親が自分のことを大切に思ってくれていることが分かり、うれしく思う気持ち。
問七	エ

〈ねらい〉

豊かな心を育てるという観点にも配慮し、文学的文章を素材として、文脈に即した内容の把握など、文学的文章を読むための基礎力や、登場人物の言動や心情、表現の意味や特徴を、叙述に即して的確に理解し、表現する力等をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 正答率は64.3%で、昨年度に比べやや高い(昨年度61.1%)。
- ・ 漢字を正しく読む問一の③(「空回り」)、文脈に合う慣用的表現を指摘し、文がつながるように書き直す問二のB(「持て余し」)の正答率は高いが、問二のA(「合わせた」)の正答率は、31.5%とかなり低い。
- ・ 登場人物の心情や、文章表現の特徴・効果をとらえ、適切な記号を選択する問五、問七の正答率が高い。
- ・ 漢字を正しく書く問一の②(「過大」)の正答率は、35.8%とかなり低い。誤答の多くは「課題」と書いており、文脈に即して正しい漢字を書く力や、語彙力が不足している。
- ・ 登場人物の言動からその心情をとらえ、書いてまとめる問六の正答率も、41.8%と低い。特に、「揺れに紛らせて」笑った「カズユキ」の心情(少し照れくさい気持ち)についての説明が不足している解答が目立った。
- ・ 登場人物の心の中を表す言葉を、文章の展開に即して適切な箇所に入れる問三の正答率は、44.6%と低い。文章中から根拠となる表現を的確につかむ力に課題がみられる。

〈今後の指導〉

- ・ 生徒の読むことへの関心や意欲を高める学習課題を設定し、文章の表現を根拠に、生徒の多様な読みを引き出しながら、登場人物の言動や心情、思考の変化などについて検討・吟味する授業展開を工夫する。
- ・ 「読むこと」の指導だけでなく、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の指導との関連を図り、読み取った内容について書いてまとめたり、話し合ったりするなど、生徒の表現する力の向上に結びつく授業場面を設定する。
- ・ 授業で扱った教材に関連する文章や本を紹介する、学校図書館等を活用して生徒の読書活動を積極的に促すなど、多様で良質な文章表現に触れさせる機会を増やす。



〈標準解答〉

問一	① じゅうにんという ② ださく ③ 愛好
問二	ウ
問三	エ
問四	イ
問五	(例) ④は、作品を鑑賞して感動し、積極的にその価値を見いだすことであり、⑤は、作品を鑑賞して自分の精神を豊かにし、自分自身をつくり、新たな世界を発見することである。
問六	ア
問七	ウ

〈ねらい〉

論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるといった観点にも配慮し、説明的文章を素材として、論理的文章を読むための基礎力や、文章の論理の展開をとらえる力、要旨をまとめる力等をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 正答率は64.4%で、昨年度に比べやや高い（昨年度59.6%）。
- ・ 漢字を正しく読む問一の㉠（「じゅうにんという」）㉡（「ださく」）、内容の説明として適切な記号を選択する問三の正答率が高い。
- ・ 文章のキーワードである「創造」の内容の違いをとらえ、記述して説明する問五の正答率は31.9%とかなり低い。特に、④については、直前にある「味わうこと」は「価値を創造すること」という表現をとらえていない解答が目立った。⑤については、「精神を豊かにする」「自己を確立する」「新たな世界を発見する」という内容を、制限字数以内にまとめきれない解答が多かった。文章の要旨を的確にとらえ、文章中の言葉を使って端的にまとめる力に課題がみられる。

〈今後の指導〉

- ・ 段落ごとの詳細な読みだけでなく、文章全体の中で問題提起や結論、主張や具体例にあたる部分を大きくとらえさせる授業展開を工夫する。
- ・ 説明的文章の中で使われる抽象的な概念を表す語句等に慣れさせ、設問の条件や字数制限に合わせたまとめ方を意識させる。
- ・ 平素から、比較的長めで論理性の高い文章を読ませ、文章の一部分または全体について、その要点をまとめさせる場を多く設けるとともに、根拠を明確にししながら自分の考えや意見を述べさせる。

三

〈標準解答〉

問一	エ
問二	(例) 相手や場面に応じて、支援や手助けなどの言葉と使い分ける傾向が見られる。
問三	D
問四	(例) 私は敬語の使い方を見直し、目上の方に正しく敬語を使えるようになるべきだと考える。それは、世論調査で敬語の使い方が乱れていると思う割合が、増えているからだ。また、私が市役所で職場体験をした時、職場や市民の方々に敬語をうまく使えず困ったからだ。

〈ねらい〉

広く言語文化についての関心を深めるといった観点にも配慮し、生徒が資料をもとに意見文を書くという設定を通して、資料が果たす役割を理解する力、グラフや図表から必要な情報を読み取りまとめる力、情報を活用して自分の考えを表現する力等の「読解力」をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 正答率は44.5%で、昨年度に比べかなり低い（昨年度59.8%）。
- ・ 文章の展開に合うように、グラフから読み取った内容を書いてまとめる問二、意見文の構成や論理の展開をとらえ、問題点の解決策に当たる部分を、適切な箇所に挿入する問三の正答率は、それぞれ24.0%、34.0%とかなり低い。
- ・ 問二では、「お年寄りと話するときには、手助けという言葉を使っている。」など、「田中さんの主張」（相手や場面に応じて使い分ける）を踏まえておらず、グラフ全体から読み取れる情報ではなく一部の説明に終始している解答が目立った。問三では、「C」と答えた例が多く、「提案→問題点1とその解決策→問題点2とその解決策」という論理の展開をとらえきれていない。「また」という並列の接続語が、意見文の構成の中で、どのような意味をもつかについての理解も不十分である。
- ・ 図表の情報を活用し、条件を踏まえて自分の意見を書く問四の正答率も、53.6%と低い。特に、主張に当たる部分（「どのようにするべきだと考えるか」）が不足している解答や、自分の具体的な体験を主張につなげられない解答が目立った。与えられた情報を自分の体験と結びつけながら、目的や意図に応じて書く力に課題がみられる。

〈今後の指導〉

- ・ 目的に応じて資料（文章、グラフ、図表等）から必要な情報を読み取り、それを日常的・実用的な言語活動に生かす場面を設定する。
- ・ 明確なねらいのもとに、教師や生徒同士の対話や交流が生まれるような言語活動を授業の中に組み入れる。
- ・ 意見文を書かせる指導では、主張とその根拠が明確であるか、どのような構成や展開が効果的であるかについて、個人やグループで吟味する場面を設定する。

四

〈標準解答〉

問一	(例) こおっている (こおった)
問二	不 _レ 覺 到 _二 君 家 _一
問三	(例) 同じ言葉をくり返している (対比の表現がある)。
問四	(例) 春がやってきた (近づいた) ことを、知らせてくれる花。
問五	エ
問六	筆順の変化 ウ 点画の省略 イ

〈ねらい〉

様々な文章を読み味わい、読書活動を充実させるという観点にも配慮して、春の季節や風を題材とした韻文の素材を通して、古典を読むための基礎力をみるとともに、複数の文章を読み比べ、表現の特徴や内容を理解する力等をみる問題である。書写に関して、行書の特徴の理解もみている。

〈考察〉

- ・ 正答率は51.5%であり、昨年度に比べ低い (昨年度60.8%)。
- ・ 古文の歴史的仮名遣いを正しく読み、現代語訳する問一の正答率は16.5%とかなり低い。誤答の多くは「こぼれる」と書いており、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときのきまりの理解や、現代語訳を参考にしながら、古典の内容を的確にとらえる力が不足している。また、書き下し文に従って漢文に返り点を施す問二の正答率も58.1%と低く、古典を読むための基本的な知識や技能が不足している。
- ・ 漢詩と現代詩を読み比べ、共通する表現上の特徴をとらえ、説明する問三も59.8%と低い。無解答が多く、異なるテキストを読み比べ、表現の違いや共通点をとらえる力に課題がみられる。
- ・ 詩の表現 (「まんさくの花」) に込められた意味を問う問四の正答率は、35.8%とかなり低い。「花ともいえないほどの花」「大切な花」など、まんさくの花が持つ象徴的な意味を十分にとらえていない解答が目立った。「山の風が鳴る疎林の奥から」「寒々とした日暮れの雪をふんで」、まんさくの花を持ってくる子どもたちの心情が読み取れていない。

〈今後の指導〉

- ・ 日頃から音読・朗読などを通して古典を含む韻文に親しませるとともに、歴史的仮名遣いや漢文の訓読のきまりなど、古典を読み深めるためには基本的な知識や技能が必要となることを、生徒に実感させるような授業展開の工夫をする。
- ・ 教科書にある語注や口語訳、鑑賞文などを参考にしながら、古典を含む韻文の内容を読み深め、表現の特徴やその面白さについて、互いの意見を述べ合う場面などを授業の中に設定する。
- ・ 折に触れて詩歌などのすぐれた作品を紹介したり、学校図書館等を活用しながら課題解決のための学習を行ったりして、言語文化に対する興味・関心を高め、日常の自己の言語生活を豊かにする意識をもたせる。